



天野進吾が視る。語る。今日のできごと。まつりごと。

ホームページを見てください http://www.amano-shingo.info

## 高度経済成長はもうひとつ

報道機関は盛んにわが国経済が、未曾有の経済成長を続け、11月で遂に「いざなぎ景気」を抜いたという。しかしその感慨は、少なくとも地方の経済界においては殆ど感知されてはいません。

事実、地方の経済界においては、本市を例に引くまでもなく企業の実体は青息吐息の状況にあると言つても過言ではありません。しかもその原因は嘗て誰もが「時代の当然の要求」と歓迎した「構造改革」の実体でありました。

無駄を省き規制を緩和することによって、競争を促進し、経済の効率化が高められるとの政府の説得力ある説明に国民の誰もが納得したのであります。

しかし、結果は弱肉強食の凄まじい現実だけが国民の前に露呈されたに過ぎません。

殊に顕著な行政上の変化として、近年、地方の自治体が実施する入札等において、地域性を無視し希望する事業者全てに門戸を広げた結果、例えば県庁の西館の清掃業務に初めて応じた東京の業者は県当局が積算した金額の19%で落札するなど「規制緩和」は予想外の方向に展開していったのであります。

また日常生活の中でも、米であれ酒であれ、以前の販売に伴う許認可の制度も撤廃され、その結果、こうした商品の多くは超大型販売店の目玉商品として大量消費のルールに乗せられ、おのずと個人商店は淘汰されていったのであります。

「官から民へ」「中央から地方へ」という国民の耳に優しい政府の「構造改革」路線は、結局は掛け声だけの改革に終始、その恩恵は大企業、大都市に集中し、中央と地方、富める者と貧しき者の格差は一層拡大していったのであります。

計画通りの成果を収めた「平成の大合併」構想も、概して当該自治体の思惑とはかけ離れ、弱小の町村に対しては年度まで定めてこれを推進、更に補助金や交付税の減額をちらつかせて図つたのであります。県は国の要請に応じて仲人役を買い、恰も合併の出来高が知事能力であるがごとく、その街の「歴史や個性」を無視して推進に奔走してきた感があるのであります。

結局、政府の響きよい政策は、行政的にも経済環境も一層、中央集権化していったのであります。

今こそ、私達は官民一体となつて中央省庁に本当の「地方の時代」を創造すべく声高に主張しようではありませんか。

来年の参議院選挙を睨んで自民党本部は今、喧しい日々が続いている。

それは昨年の衆議院選挙に絡み、小泉総理の信念とも言ふべき「郵政民営化法案」に反対した獅子身中の虫、所謂、「造反組」を復党させるべきか否か、党執行部としても頭の痛い課題に翻弄されているからである。

その騒ぎを拡大している張本人は申すまでもなく「小泉チルドレン」たちである。なんと

### 造反組の復党問題を考える

云つても彼らは突然の御声掛けによって、前後の見境なく押っ取り刀の土俵入りを果たしたものの、その選挙基盤は極めて脆弱である、だからこそ自分たちの環境の変化には敏感に反応するのである。

しかも応援団長として買つてきたのが、一時は顔面蒼白に陥つた武部前幹事長、「古き悪しき抵抗勢力」と造反組を評し、断じて彼らの復党は許さないと、集まつたチルドレン達の前で六方を踏んだのであった。

しかし、私は当時このスコープの紙面で弾劾させていただきましたが、今尚、自民党内部にあの総選挙への反省が表面化してこないことに疑問を抱くのである。何故なら小泉総裁の選んだ選挙手法は将に「翼賛選挙」、戦時たけなわの昭和18年、東条内閣の執つた手法とどれだけの違いがあるのか。

既に、自民党も安倍総裁のもとに新たな時代に向つております、そこには憲法改正という超弩級の政治課題が横たわり、更に北朝鮮の核実験によって引き起こされた新たな安全保障問題、教育基本法など郵政に比べれば遥かに重要な政治課題が山積してあります。

問答無用の理論によって党を除名された「造反」グループの方々の復党問題は、この際、速やかに解決すべきものと信じます。



# 梶原山をご存知ですか

清水区との境に、今では整備され西奈地域の憩いの場となっている梶原山があります。この梶原山の命名の由来は、恐らくこの地で果てた梶原景時の名前から付けられたものでしょう。

時に鎌倉幕府を開いた源頼朝が妻方の北条氏の力を借りて、平家討伐を試みたが脆くも石橋山の戦いで敗れました。

頼朝主従7人は逃げる途中、大きな洞穴に潜んでいたが、間もなく平家方の探索に見えられ、絶体絶命の窮地に陥ったのであった。

処が探索方の武將梶原景時、梶原家は嘗て「源家」の流れにあったことも、急場にあつて景時の心境の変化に作用したでしょう。頼朝は景時の機敏な助けによつて九死に一生を得たのでした。

その後、源頼朝は木曾義仲や弟源義経らの働きで勢力を伸ばしていきます。何時しか景時もまた頼朝の重鎮として頭角を現していききました。しかしともとも「寝技師」的性格の持ち主である景時は徐々に重臣たちに見放され、その結果、自ら拳兵すべく、鎌倉を離れ京都に向つたのであります。しかし、景時一行が駿河に入るやこの地を支配する入江一族によつて発見され、撃破され、遂に梶原山で自害し、果てたのでした。

処でこの時景時が乗っていた馬が、宇治川の戦いで「先陣争い」をした名馬「磨墨」と云われておりますが、このことに一寸触れておきます。

名馬「磨墨」は前々回のスコープで紹介しました「聖一国師」の出生地と同じ栃沢(藁科川の上流)と言われております。栃沢が輩出した名馬を源頼朝が入手し、後に論功のあつた景時に与え、その馬で宇治川の戦いにおいても殊勲をたてたといわれております。

## 一寸一言

私の雑記帳から

### 市は「静岡おでん」に予算化

市議会は11月議会に人気の「静岡おでん」を更に広める意図のもとに、総額630万円を予算計上しました。

近年「富士宮やきそば」など全国的にこの当地名物が流行している中、よそ者から見れば眉を顰めるほど「どす黒く」しかも怪しい雰囲気静岡特産の「おでん」が、このところ急速に人気を得てきました。

「はんぺん」について私はしつこいようですが、再度ここに紹介しておきます。

まず第一にあの食べ物と呼称は本来「黒はんぺん」ではありません、私達が幼い頃、近所の魚屋に買い求めたこの食品は「はんぺん」という名前でした。

『進吾「はんぺん」買ってこい』と屢々親か

しかし私にはどうしてもその点については信じられません。栃沢は馬の飼育に馴染む土地ではないし、仮に飼育されていたとしても、そこに「名馬」が存在している情報は遠く鎌倉まで届く環境にはありません。

また西奈小学校の界限には光鏡院、龍泉院など瀬名氏一門に関わる立派な寺院もあります。瀬名氏の初代「一秀」の墓が光鏡院に、3代目氏俊の奥方(今川義元の妹)が龍泉院に祀られております。一度お尋ねください。

從小銭を渡され近所の魚屋に使いをさせられた事を覚えております。

因みに広辞苑には「半片」として、「駿河の料理人半平の創製」とあります。

昔、呉服町の界隈「ホテル魚子」もその名残でしょうがこの地域は魚屋を営業できる「中魚町」があり、ここに住む「戸田半平」が駿河湾の雑魚をすり身にでんぷんなどを加えて作った練り製品が「はんぺん」であり、人々はその発明者の名前を採つてこれを「はんぺん」と称して現代に至つたのであります。少なくとも関東から「白はんぺん」が私達の目に触れるまでは静岡人の馴染みの食品「はんぺん」でした。

折角、予算化して本市の名物「静岡おでん」を宣伝するならば、この際、ご当地食品であり、欠くことのできない「おでんの種」の由来に光を当てて欲しい、そして発明者の戸田半平さんを郷土の偉人として顕彰するとともに、江戸時代からの呼び名「はんぺん」の復活を願いたいものです。

## 彩時記

### クリスマスカラーで華やかに

12月の声を聞くと、街はクリスマスムード一色に包まれます。特に最近、街路樹から個人の家まで電飾のイルミネーションで飾られており、きらめく光が冬の夜を幻想的に彩ります。今年のイルミネーションは、ブルーが一番人気とか。やや冷たい感じはしますが、澄み切った星空のイメージが好まれているのでしょう。

ところでクリスマスカラーの定番といえば、赤、白、緑、金色。赤は太陽の赤とキリストが流した血の赤を、白は聖母マリアの純潔と大地に降りしきる雪を、緑は永遠の命を、そして金色はキリストに献上された黄金を意味しています。

自然界の色が減ってしまう寒い季節に、鮮やかなクリスマスカラーやイルミネーションは、私たちの心に明るい灯をともしてくれます。あなたもインテリアや小物にクリスマスカラーを取り入れて、12月をあたたかく過ごしてみませんか。

### スコープはおかげさまで 3年経過しました。

毎月発行は慣れない私にとって意外に忙しい仕事でしたが、読者からの激励もあり、豚も煽りや・の言葉通り、一生懸命書き綴つて参りましたが、早くも今回で36号を数えました。この間ご愛読戴いた皆様様に改めて感謝いたします。

何時まで継続できるか解りませんが、これからも頑張つて発行させて戴きます。有難うございました。

天野進吾